

76回生からの読書案内

(高校生)



甲南女子中学校・高等学校 図書館

読書案内の見方（高校生）

著者名
『書名』（出版社）

請求記号

◆紹介者がまとめてくれた、あらずじ

【紹介者がこの本を読んだ学年】

【紹介者のお勧めのひとこと】

（紹介者の氏名）

（請求記号を記載していない本は、本校図書館では所蔵していません。）

目 次

お勧めの本は、日本人の著者は姓名の五十音順に、
外国人の著者は姓名のアルファベット順に並べて、掲載しています。

逢坂冬馬	…… p. 1	小坂流加	…… p. 8
阿川大樹	…… p. 1	小森宏美	…… p. 8
芥川龍之介	…… p. 1	是枝裕和	…… p. 8
浅倉秋成	…… p. 1	紺野天龍	…… p. 9
有川 浩	…… p. 2	坂木司	…… p. 9
伊岡瞬	…… p. 2	さだまさし	…… p. 9
五十嵐律人	…… p. 2	佐藤愛子	…… p. 9
伊坂幸太郎	…… p. 3	汐見夏衛	…… p. 10
一条岬	…… p. 3	志駕晃	…… p. 10
稲垣栄洋	…… p. 3	重松清	…… p. 10, 11
乾くるみ	…… p. 4	斜線堂有紀	…… p. 11
井上真偽	…… p. 4	新川帆立	…… p. 11
井伏鱒二	…… p. 4	住野よる	…… p. 12
上橋菜穂子	…… p. 4	瀬尾まいこ	…… p. 12, 13
雨穴	…… p. 5	背筋	…… p. 13
宇山佳佑	…… p. 5	田口佳史	…… p. 13
江戸川乱歩	…… p. 5	太宰治	…… p. 13, 14
小川糸	…… p. 6	太刀川 瑛弼	…… p. 14
小川洋子	…… p. 6	田辺聖子	…… p. 14
小野不由美	…… p. 7	知念実希人	…… p. 14, 15
加藤シゲアキ	…… p. 7	月原渉	…… p. 15
川北義則	…… p. 7	辻村深月	…… p. 15, 16
岸政彦	…… p. 7	津村記久子	…… p. 16
岸見一郎, 古賀史健	…… p. 7	中島敦	…… p. 16
くわがきあゆ	…… p. 8	中島京子	…… p. 16
河野玄斗	…… p. 8	中村文則	…… p. 16

風良ゆう	p. 17	デイヴィッド・ローベンハイマー	p. 27
夏目漱石	p. 17	スティーヴン・J・シンブソン	p. 27
貫井徳郎	p. 17、18	ドナ・ジャクソン・ナカザワ	p. 27
服部まゆみ	p. 18	アーサー・コナン・ドイル	p. 27
原田マハ	p. 18	ハン・ジェニー	p. 27
東野圭吾	p. 18, 19	ハンス・ロスリング	p. 28
藤本ひとみ	p. 19	オーラ・ロスリング	p. 28
藤原てい	p. 20	アンナ・ロスリング・ロンランド	p. 28
星新一	p. 20	ヘルマン・ヘッセ	p. 28
万城目学	p. 20	J・R・R・トールキン	p. 28
町田そのこ	p. 20	ロバート K. レスラー	p. 28
松村真宏	p. 20	トム シャットマン	p. 28
松本清張	p. 21	ロジェ・マルタン・デュ・ガール	p. 29
三浦しをん	p. 21	J.K. ローリング	p. 29
湊 かなえ	p. 21, 22			
宮下奈都	p. 22			
宮部みゆき	p. 22			
村上春樹	p. 23			
村田沙耶香	p. 23			
桃戸ハル	p. 23			
森見登美彦	p. 23, 24			
山田悠介	p. 24			
吉野源三郎	p. 24			
カズオ・イシグロ	p. 25			
アガサ・クリスティー	p. 25			
アンネ・フランク	p. 25			
チョ・ナムジュ	p. 26			
ダニエル・キイス	p. 26			

逢坂冬馬

『同志少女よ、敵を撃て』 (早川書房)

913. 6/Ai

◆独ソ戦のさなか、ドイツ軍の襲撃で母親と故郷を奪われた少女が狙撃兵となり、復讐を果たすため、女性だけの狙撃隊の一員として過酷な戦場を生き抜く姿を描いた物語。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 小さな村で暮らしていた少女が恐ろしい狙撃手になっていく姿が仲間の死などを通して書かれている点にとっても心が絞めつけられる。実際に存在していた人も登場するため、戦争の身近さを感じられる。

(高橋愛華)

阿川大樹

『終電の神様』 (実業之日本社)

所蔵なし

◆一つの人身事故をきっかけとして起こる様々な人の人生を短編小説で読める本。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 電車で、近くの席に座っている人それぞれに、その人が主人公の人生があるんだという、当たり前だけど普段は気にしていないことに気づかせてくれる。

(児島彩那)

芥川龍之介

『羅生門・鼻』 (新潮社)

913. 6/ア/ (b)

◆ある日の暮れ方、主人から暇を出され途方にくれる下人が荒廃した羅生門の下で雨やみを待っていた。彼が門の楼上に登ると、女の死体から髪を抜く老婆がいた。憎悪を抱き、力で老婆を押さえつけた下人だったが、老婆から生きるための悪事を正当化する言葉を聞く。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 学校の授業の時に初めて読んだのですが、読む前までは有名な作品だけ難しい印象がありました。しかし、読んでみると、情景の変化やその場面の空気感がひしひしと伝わってくるような表現が沢山あり、とても引き込まれます。授業での解説を聞いてから読み直すとさらに面白いので、ぜひ一度読んでみてください！

(徳久花連)

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 文豪の作品と聞くと、内容や表現が難しく、読みにくそうなイメージでした。怪しい下人と老婆の登場から始まる物語に少しゾクッとして、面白かったです。

(松見香穂)

浅倉秋成

『六人の嘘つきな大学生』 (KADOKAWA)

913. 6/Asa

◆六人の就活生が最終面接でグループディスカッションという形で、彼ら自身が六人の中から内定者を一人選ぶことに。その議論が進む中「〇〇は人殺し」という告発文が。六人の「嘘」は何か。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 最後まで誰がどんな「嘘」を隠しているのか、分からない。そして、告発文は誰が仕掛けたのか。沢山の心理戦があり、読んでいて面白い。

(堀寧音)

有川 浩
『阪急電車』 (幻冬舎)

913. 6/ア

◆片道15分、阪急電車今津線を舞台に繰り上げられる物語。婚約者に裏切られたOL、受験に悩む女子高生。小さな悩みに葛藤し、少しの生きづらさを感じる登場人物たち。阪急電車を通じて、接点のなかった人同士が繋がり、お互いの心を癒していく。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 私達にとって身近な阪急電車が物語の舞台になっているということが面白かったです。知っている地名なども沢山出てきます。阪急電車についてもっと知りたい！という好奇心が湧く物語です。

(河原末和)

有川 浩
『図書館戦争』 (角川書店)

913. 6/ア

◆政府が厳しい検閲であらゆるメディアを取り締まる近未来の日本を舞台に繰り上げられる物語。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 日本国憲法の知る権利を守る重要性和、政治への無関心の危険性を理解出来る。

(三輪晴希)

有川 浩
『旅猫リポート』 (講談社)

913. 6/ア

◆野良猫のナナは瀕死の自分を助けてくれたサトルと暮らし始めた。それから5年、ある事情からサトルはナナを手放すことに。「僕の猫をもらってくれませんか？」と一人と一匹は銀色のワゴンで最後の旅に出る。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 サトルと猫のナナが大切な思い出を作り合いながら、お互いにかけてえのない存在になっていく「旅」の様子。何度も泣ける場面があり、前向きになれる。

(勝浦李咲)

伊岡 瞬
『赤い砂』 (文藝春秋)

913. 6/イ

◆飛び込み自殺をする男から話が始まる。現場検証をする鑑識係、電車の運転士、警察官。連鎖する自殺の理由を解明していく。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 怖いけれども面白いです。相次ぐ自殺の真相は何なのか？ハラハラしながら、ページをめくる手が止まりませんでした。

(福永ゆな)

五十嵐 律人
『法廷遊戯』 (講談社)

913. 6/イ

◆司法試験に合格し、晴れて弁護士になった主人公が、ロースクール時代の同級生二人が被害者と被告人となった殺人事件の裁判を担当することになる。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 初めに想像していた結末と本当の結末が全然違っていて、読み終わった時にとっても満足感があります。

(岡本唯)

伊坂 幸太郎 『死神の精度』（文藝春秋）	913.6/イ
-------------------------	---------

◆CDショップに入りびたり、苗字が町や市の名前であり、受け答えが微妙にずれていて、素手で他人に触らない—そんな人物が身近に現れたら、それは死神かもしれません。死神・千葉が会う六人の人生の話。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 短編集なので合間に読みやすく、登場人物達のリズムの良い軽妙な会話が面白い。

（小嶋彩夏）

伊坂 幸太郎 『陽気なギャングが地球を回す』（祥伝社）	913.6/イ
--------------------------------	---------

◆色々な能力をもったギャングが襲撃する中で繰り広げられるサスペンス。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 ハチャメチャな強盗劇！展開が早くて、分かりやすく、面白いです。本嫌いな人でも楽しく読めます。

（木村さくら）

伊坂 幸太郎 『砂漠』（実業之日本社）	913.6/イ
------------------------	---------

◆大学で出会った5人の男女が互いに絆を深め、それぞれを成長させていく。青春時代が爽快到に描かれている。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 仲間と過ごす一日一日の儚さと大切さと温かさを感じさせてくれる作品。

（大西琴子）

一条 岬 『今夜、世界からこの恋が消えても』（KADOKAWA）	所蔵なし
-------------------------------------	------

◆高校生のラブストーリー。あることがきっかけで、主人公・神谷透は、日野真織に「嘘」の告白をする。嘘だったはずだが、透は真織に本気で惹かれるようになる。しかし、真織は一日ごとに記憶を失ってしまう難病「前向き健忘」であることを明かす。

【お勧めの点】 とても切ないお話だった。一日経ったら記憶がなくなる真織、そんな真織を好きになった徹。「二人の幸せが少しでも長く続きますように。」と願いながら読み進めた。

（藤堂真央）

稲垣 栄洋 『世界史を変えた植物』（PHP研究所）	471.9/イ
------------------------------	---------

◆人間のつくりあげてきた歴史の影にはいつも植物の存在があった。古代文明が植物によって生み出されていたら、産業革命の原動力となったものがある植物だったら、そんな植物から見た人間の歴史がのぞける本になっています。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 コーヒー豆はコーヒーノキという植物の種子で、日本人に飲まれるようになったのは第二次世界大戦後。コーヒーと日本人の付き合いは決して長くありませんが、どうして我々は魅了されてしまったのか。その他にもトマトやタマネギなど身近な多くの植物が出てきて、様々なことが分かるのでとても面白いです。

（片山まい）

乾 くるみ

『イニシエーション・ラブ』（文芸春秋）

913. 6/イ

◆鈴木という男とマユコの恋愛模様を描いています（しかしただの恋愛劇ではない）。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 ただの男女の恋愛模様だと思って読んでいると最後の二行で必ず騙されます。言葉や表現に注意して読むとタネに気付けるかも。

（山本彩哉子）

井上 真偽

『ぎんなみ商店街の事件簿<Sister編>』（小学館）

913. 6/Ino

◆Brother編とはちがい親に愛されて育っていく姉妹がぎんなみ商店街の事件を明かしていく話。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 Brother編では明かされなかった真実が沢山あったり、恋愛の話があったりしておもしろい点。

（鈴木萌乃佳）

井伏 鱒二

『ジョン万次郎漂流記』（偕成社）

913. 8/イ

◆少年の頃、海で漂流していたところを助けられて米国に渡り、後に日本の外交で重要な役割を果たす実在の人物ジョン万次郎の人生を描いた作品。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 漂流中での無人島での生活、救出後にハワイで仲間たちと別れてからのそれぞれの経緯などが分かり易く書かれている。

（萱野紗衣）

上橋 菜穂子

『鹿の王』（KADOKAWA）

913. 6/ウ/1～4

◆大帝国の奴隷となってしまった主人公が、謎の疫病が流行り、他の奴隷や民間人が急死していく中、生き残った幼子と治療法を見つけるために旅をする物語。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 コロナ禍になる前に発表された本ですが、疫病の流行がコロナと重なる部分があり、ファンタジー要素が強めなのにもかかわらず、現実味が感じられる点。また、二つの視点から物語が進められているので、登場人物の気持ちを感じやすい点。

（稲田美優）

雨穴

『変な家』（飛鳥新社）

913. 6/Uke

◆一つの事件を様々な間取りを通してひも解いていく話。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 文字だけでなく間取りを通して視覚的にも考察のしがいがあるので活字が苦手な人でも読みやすい。

（耕田真帆）

◆東京で売りに出された1軒の中古物件。外見はどこにでもあるような民家だが、その間取りにはおかしな点がいくつもあった。いったい誰が、何のためにこの家を建てたのか。その謎を追った先に、一つの恐ろしい事実があった。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 ホラーやミステリーが好きな人は読むべきだと思う。家に不可解な点があるところがゾクッとする。

（香川みのり）

宇山 佳佑

『桜のような僕の恋人』（集英社）

913. 6/ウ

◆美容師の美咲とカメラマンの晴人は惹かれ合い、恋人同士になる。しかし美咲は、人の何十倍もの早さで年老いる難病を発症してしまい、老婆になっていく姿を恋人にだけには見せたくないと思ひ…。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 好きな人には自分の老いた姿を見せたくないと思ひ、別れを告げるもお互い未練タラタラで切ない点や、一緒に見た景色を写真に収める点など、美しくてきれいで切ない物語です。

（山根夕奈）

江戸川 乱歩

『黒蜥蜴』（角川書店）

所蔵なし

◆黒蜥蜴という女性の盗賊の俗称で、女冥利に尽きる話です。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 長いけど読み続けやすいと思いました。伏線をちゃんと回収してくれるのでおもしろいです。

（鮫島心寧）

小川 糸 『ライオンのおやつ』（ポプラ社）	913.6/0ga
--------------------------	-----------

◆人生の最後に食べたいおやつは何ですか。若くして余命を告げられた主人公の雫は、瀬戸内のホスピスで残りの日々を過ごすことを決め、本当にしたかったことを考える。すべての人にいつか訪れることをあたたかく描き出す。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 主人公は若くしてガンを患いますが、病院ではなく少し変わったホスピスで死ぬ時まで過ごします。ホスピスで出されるおやつは、ホスピス内の誰かの思い出のおやつだといふところがしんみりします。人が死ぬまでの物語を読んで、今が愛おしくなります。

(牧田愛可)

◆主人公の女性は末期のガンを患っています。終末施設“ホスピス”での彼女と周りの人々との物語です。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 “生”と“死”について自分に問いかけることのできる一冊です。人生は有限であるからこそ、今日の大切さを噛み締めることができます。

(長富日向)

小川 洋子 『ホテル・アイリス』（幻冬舎）	913.6/オ
--------------------------	---------

◆『ホテル・アイリス』は、海外の場末感だよう小さなホテルが舞台で、ここで働く主人公の少女と怪しげな中年男の恋を描いた作品です。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 夏の話なのに、話の内容がクールな雰囲気なところが良いです。

(藤原奈々)

小川 洋子 『博士の愛した数式』（新潮社）	913.6/オ
--------------------------	---------

◆シングルマザーの杏子が家政婦として訪れた家に住む博士は、80分しか記憶を持たない数学者だった。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 読んでいるうちに、博士の優しさに心があたたかくなる本です。数学が嫌いな方でも苦手な方でも大丈夫。是非読んでみて欲しいです。

(鶏内菜々子)

◆記憶が80分しかもたない「博士」と新しい「家政婦」の物語。驚き、歓び、悲しみ、愛しさなど沢山の感情がある物語。

【自分が読んだ学年】 小学生

【お勧めの点】 中学生でも読めるが、数学の話など、高校生になってから気がつくことが多い作品。ありそうでない愛の物語がとても印象に残る。

(松尾仁奈)

◆「ぼくの記憶は80分しかもたない」博士の袖にはそう書かれた古びたメモが留められている。記憶力を失った博士にとって私はいつも“初対面”の人。数字が博士の言葉のように、数字を愛した。ごちない日々は驚きと歓びに満ちたものに変った。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 第1回本屋大賞、第55回読売文学賞-小説賞を受賞。映像化もされているという点。

(伊藤涼花)

小野 不由美 『十二国記（全15巻）』（新潮社）	913. 6/オ/1～9
-----------------------------	--------------

◆人間が住む世界と地図上にない異世界（十二国）とを舞台に、くり広げられる壮大なファンタジー。十二国では天意を受けた麒麟が王を見出し、「誓約」を交わして玉座に据え、選ばれた王が国を治め、麒麟がそれを補佐する。それぞれの国を舞台にさまざまな壮大な物語が繰り広げられていく。

【自分が読んだ学年】 高2～3

【お勧めの点】 巻ごとに異なる主人公の物語が進んでいくが、海を越えてつながっているため、過去にでてきた登場人物とつながるところがあり、展開が早くて続きが気になって読み始めると止まらないです。

(伊藤明莉)

加藤 シゲアキ 『Burn. -バーン-』（KADOKAWA）	913. 6/Kato
------------------------------------	-------------

◆天才子役としてもはやされていたレイジは、ただの孤独な少年。イジメから救ってくれた魔法使いのようなホームレスと幸せな時を過ごした。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 身近ではないレイジの状況を、イジメを通して共感できることが多く、読みやすい。結末は想像できなくて、読み進めやすかった。本が苦手な子に読んでほしい。

(大橋梨乃)

川北 義則 『「20代」でやっておきたいこと; ビジネスパーソン必須心得 ちょっと辛口で過激な、生き方論』（三笠書房） 159. 7/カ

◆20代でやっておくべきことがたくさん書いてあります。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 20代でやっておくべきことを10代で読むと、人生豊かになると思います。でも正直そんなこと気にせずに、自分らしく生きるとHappy lifeおくれます。

(山崎孝葉)

岸 政彦 『ブルデュー『ディスタンクシオン』; 「私」の根拠を開示する』（NHK出版） 361. 235/K

◆フランスの文学史に重点をおいて、社会学の視点から分析する内容。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 最近、現実主義を達観した子供が増えているので、全く異なる主義をもつ大人の意見書を読むことで、自分に反映させて考えることができる点。講義versionもあるので解説つきで理解しやすい。

(津高知優)

岸見 一郎, 古賀 史健 『嫌われる勇気』（ダイヤモンド社）	146. 1/K
-----------------------------------	----------

◆「どうすれば人は幸せに生きられるか」という問いに答えが提示される。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 アドラー心理学という少し難しいテーマですが、とても分かりやすかったです。この本を読むだけで生き方が分かるような、人生の参考になる本だと思います。

(木下叶梨)

くわがき あゆ

『レモンと殺人鬼』（宝島社）

913. 6/ク

◆10年前、洋食屋を営んでいた父親が通り魔に殺されて別の親戚に引き取られたが、妹の遺体が発見されたことから運命の輪は動き出す。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 意外な事実が二転三転！どんでん返しがおもしろいです。どんどん読み進めることができます。

（松村舞子）

河野 玄斗

『東大医学部在学中に司法試験も一発合格した僕のやっているシンプルな勉強法』（KADOKAWA） 379. 7/K

◆勉強の仕方や、集中力の持続方法など、東大生の河野玄斗さんがすべてを教えてくれる。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 自分が苦手な分野や、なかなか勉強が進まない人が読むと、モチベーションにつながると思います！

（中村亜莉沙）

小坂 流加

『余命10年』（文芸社）

913. 6/コ

◆20歳の茉莉は数万人に一人という不治の病にかかり、余命が10年であることを知る。10年以上生きた事例のない病気と共に残された人生を生きていく物語。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 10年という長いようで短い時間の中で悔いなく生きるということの難しさ、大切さを感じることができる所。

（久保田真央）

◆数万人に一人という不治の病に冒され余命10年を宣告された20歳の茉莉が、地元の同窓会で人と出会い、恋をする話。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 人間はいつ死ぬのかわからないので、一日一日を大切に、周りの人に感謝を伝えながら生きていくことが大切であることを教えてくれる点。

（白杵花菜子）

小森 宏美

『エストニアの政治と歴史認識』（三元社）

238. 82/K

◆歴史認識の相違があることで発生した事件について考察し、さらにエストニアの法律や社会から歴史認識について考える。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 丁寧に議論が展開され、歴史認識に強く関心を持つきっかけとなった。歴史学に興味があれば是非読んでいただきたい。

（近藤彩星）

是枝 裕和

『万引き家族』（宝島社）

所蔵なし

◆東京の下町に住むある一家5人は、生活費を補うために親子で万引きなどの犯罪を繰り返していた。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 各々の悩みを抱えながらも、血のつながりの無い人たちで家族の絆を築いていくところ。

（照本真央）

紺野 天龍

『幽世の薬剤師』（新潮社）

913. 6/コ/1~4

◆薬剤師として働く主人公は、自身が専門としている漢方と現代医療の狭間で苦悩していた。ある日、仕事帰りに、不思議な少女に出会う。気がついた時には謎の感染現象に苦しむ人があふれた異世界だった。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 主人公が薬剤師として得た知識を活用して、人々を救っていくところがわくわくする。

(中松美海)

坂木 司

『和菓子のアン』（光文社）

913. 6/サ

◆デパ地下の和菓子店「みつ屋」で働き始めた梅本杏子の読めば思わず和菓子屋さんに走りたくなるお仕事ミステリー！

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 あらすじにも書いた通り和菓子がとても食べたくなるお話です。

(渋谷葵)

さだ まさし

『風に立つライオン』（幻冬舎）

913. 6/サ

◆アフリカ医療に生涯を捧げたシュバイツァーに感銘を受け、医師になった男は恋人と離れ、ケニアへ行き、多数の少年兵と悲惨な環境に向き合う話。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 医師の航一郎が出会った重症の少年兵が心を取り戻していき、医師を志すところ。

(中松初月)

佐藤 愛子

『九十歳。何がめでたい』（小学館）

甲914. 6/S

◆前向きに生きていた作者が、90歳をすぎてもなおユーモアたっぷりに生きている日常を笑い、誘うような文章で書かれている作品。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 最大の魅力は筆者の毒舌ぶりです。

(伊藤亜衣)

汐見 夏衛

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』（スターツ出版） 913.6/シ

◆戦時中の日本にタイムスリップした現代の女子中学生と特攻隊員の青年の切ない恋の行方を描いたラブストーリー。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 映画を観に行く前に本を読みましたが、活字で号泣したのはこの本が初めてでした。本を読むことをおすすめします。涙なしでは読めない本です。

（末藤万理）

◆現代の女子中学生が、終戦間際の日本にタイムスリップし、特攻隊の青年と恋をする切ないラブストーリー。

【自分が読んだ学年】 3年

【お勧めの点】 幅広い世代の方が楽しむことができる作品だと思います。今までで一番感動しました。

（仲本華音）

◆ある時突然、戦時中の日本にタイムスリップした女子中学生が、そこで青年と出会い恋に落ちる。ところが、そんな彼女を悲しい運命が待ち受けていた。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 改めて戦争の悲惨さを思い知らされた。主人公が私たちと変わらない女子学生であることから、共感できるどころが多く、ストーリーを理解しやすい！

（吉本遥香）

汐見 夏衛

『夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く』（スターツ出版） 913.6/シ

◆周りの空気を読み、優等生を演じる茜が自分と正反対の自由奔放で絵を描くのが好きな青磁と出会うことで本来の自分を取り戻し、互いに惹かれていくお話です。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 色彩の表現や描写がきれいで、まるで雨上がりの空を見ているような清々しい気分になります。

（外川愛）

志駕 晃

『あなたもスマホに殺される』（KADOKAWA）

913.6/シ

◆中学教師のスマートフォンの中に「自殺相談室」というSNSから招待が届き、他人事ではいられなくなる。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 私達の生活に欠かせないスマートフォンやSNS。自分にも起こるかもしれないと思いながら読むものすごく怖いけど、どんどん読み進めることができる。

（能勢利奈）

重松 清

『ステップ』（中央公論新社）

913.6/シ

◆ステップファミリーの父親と娘の人生を書いた話。

【自分が読んだ学年】

【お勧めの点】 娘の思いと父親の思いのすれ違いや、他の家族とはまた違う家族愛にほっこりします。

（中井彩夏）

重松 清

『カレーライス:教室で出会った重松清』 (新潮社)

913. 6/シ

◆国語の授業で一度は読んだことがある、重松清の作品。『カレーライス』を含む九つの短編が収録されている。

【自分が読んだ学年】 小5

【お勧めの点】 小学生の時みんな読んだことがあるお話で、それを今読むことで感想が変わってきておもしろいです。そして、すぐに読むことができ、忙しい高校生にはちょうどいいと思います。

(松村菜々子)

斜線堂 有紀

『恋に至る病』 (KADOKAWA)

所蔵なし

◆150人以上の被害者を出し、日本中を震撼させる自殺教唆ゲーム「青い蝶」。その主催者は何と誰からも好かれる女子高生・寄河景だった。善良だったはずの彼女がいかにして化物へと姿を変えたのか。また変わりゆく彼女に気づきながら愛することをやめられなかった幼なじみの高嶺の運命とは？！暴走する愛と連鎖する悲劇を描いた衝撃作！！

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 次に何が起こるのか、全く予想のできない展開が続いていくのでページをめくる手が止まらない！寄河景が何故そんな恐ろしいゲームを作ってしまったのか、幼なじみの高嶺との関係、また彼がその後どんな地獄にたどりついてしまうのか、終始ハラハラドキドキが止まらないオススメの本です！ ※グロテスク系とか怖い系？が苦手な方にはオススメしません！

(真鍋佳凜)

新川 帆立

『元彼の遺言状』 (宝島社)

913. 6/Shin

◆女性主人公が遺言状にふりまわされて犯人を見つけていく物語。主人公が依頼人と共謀して遺産を狙う遺産相続ミステリー作品。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 主人公のポジティブな思考が読んでいて良かった。推理をしながら読めるのがおすすめの点。

(安藤真帆)

住野 よる
『君の膵臓をたべたい』 (双葉社)

913. 6/ス

◆高校生の主人公はある日病院で誰かの文庫本が置き忘れられているのを見つける。持ち主は主人公のクラスメイトの女の子だった。誰とも関わりをもたず一人で過ごしてきた主人公の生活に変化が訪れるが…。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 主人公の感情の変化や高校生ならではの葛藤、淡く儚いその子との関係性に注目しながら読むと何かが見えてきます。衝撃のラストでは読むたびに涙があふれてきます。

(市川万由奈)

◆膵臓に病をもち余命一年を宣告された女の子が、性格が真逆の少年と出会い、惹かれあつて残りの人生を精一杯生きていく話。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 ふつう余命一年と告げられたら、どうしても受け入れられなくて暗く悲しくなってしまうのに、この少女は誰にでも明るく常に周りを笑顔にする存在であり、とても人として尊敬できる点。

(池田彩乃)

住野 よる
『また、同じ夢を見ていた』 (双葉社)

913. 6/Sumi

◆友達のいない少女、リストカットを繰り返す女子高生、アバズレと罵られる女性、一人静かに余生をおくる老女。彼女たちの幸せはどこにあるのか。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 「人生」とは、「幸せ」とは、大切なことを考える時間をくれる本。

(宮西磨佑)

瀬尾 まいこ
『そして、バトンは渡された』 (文藝春秋)

913. 6/セ

◆血のつながらない親に育てられ、四回も苗字が変わった森宮優子。高校生の今は料理上手な義理の父親と二人暮らしをしている。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 色んな人の愛や優しさを感じられる、心温まる本です。

(西山満花)

◆幼い頃に母親を亡くし、父とも海外赴任を機に別れ、継母を選んだ優子。その後も大人の都合に振り回され、高校生の今は20歳しか離れていない“父”と暮らす。血の繋がらない親の間をリレーされながらも、出会う家族皆に愛情を注がれてきた。そんな彼女自身が伴侶を持つとき…。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 子は親を選ぶことは出来ず、血の繋がらない親の間をバトンされながら沢山の愛情を注がれていく女の子の複雑でありながら心温まる物語です。映画化もされており、原作とは若干内容が違いますがどちらもとても感動する内容でした。

(杉羽淳香)

瀬尾 まいこ

『夜明けのすべて』 (文藝春秋)

913. 6/セ

◆PMSを患う藤沢さんとパニック障がいをもっている山添くんは会社の同僚。友人でもなく恋人でもない二人がお互いを助け合う物語。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 この作品は現在上映されている映画の元になった小説です。私は小説を読んでから映画を観ましたが、どちらにもそれぞれ良さがあり、小説にも興味をもってほしいと思い選びました。忙しい学校生活を送る中でも少し落ち着けるような、優しく寄り添ってくれる作品です。

(中西桃子)

背筋

『近畿地方のある場所について』 (KADOKAWA)

913. 6/Sesu

◆情報をお持ちの方はご連絡ください。近畿地方のある場所にまつわる怪談を集めるうちに、恐ろしい事実が浮かび上がってきました。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 近畿地方に住んでいるから、親近感を感じて手にとりやすいと思います。

(市川舞)

田口 佳史

『超訳論語「人生巧者」はみな孔子に学ぶ:「ビジネス論語」の決定版』 (三笠書房) 123. 83/T

◆論語の言葉を現代の状況に照らし合わせて分かりやすく解釈していく。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 人に勧めてもらって読み始めました。2500年前の古典をただ現代語訳するだけでなく、現代に生きる私達に理解しやすいシチュエーションに当てはめて説明してくれるのでとても読みやすいです。沢山言葉が取り上げられているので、お気に入りの一節を探すのもおすすめです。

(井上夏希)

太宰 治

『パンドラの匣』 (新潮社)

913. 6/ダ

◆結核療養所を舞台に繰り広げられる恋愛模様を通じて、青年ひばりの成長を描く。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 勉強する大事さを教えてくれる。

(加納朱璃)

太宰 治
『人間失格』 (新潮社)

913. 6/ダ/ (b)

◆生きづらさを抱えつつも社会に適応するため道化を演じる葉蔵は、苦しみから逃れようと酒や女遊びを覚え墮落します。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 日本文学の教養でもあり、授業でも扱う。これからどう生きるかを考える参考になるアイデアがたくさんつまっている。

(柴田絢香)

◆人間社会で、上手に生きることのできない葉蔵が破滅していく様を追う物語です。人間の在り方の不安定な部分が投影されています。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 壮大なる自分語りです。自分で自分の蓋をしていた感情が開かれると思います。

(田村優衣)

◆主人公の大庭葉蔵は、人になじめず生きづらさを抱えており、なんとかなじむために「道化」を演じるが、薬物や女性などに溺れて墮落していく。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 人間の中にある複雑な感情の入り混じりや、主人公の葛藤について考えさせられ、物語に入り込めます。

(岡本梨瑚)

太刀川 瑛弼

『デザインと革新:未来をつくる50の思考』 (パイインターナショナル) 所蔵なし

◆デザインとイノベーションと人生にとって大切なことが学べる、人生の近道ができるような本。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 デザインを学ぶ上で必要なステップを学ぶことができるだけでなく、人生において活かすことができるような内容が沢山紹介されている点。

(山納梨沙)

田辺 聖子

『私本・源氏物語』 (文芸春秋)

918. 68/T9/9

◆源氏物語が大阪弁で読める！？中年の従者の眼を通して、大阪弁で軽快に語られる、庶民感覚満載の爆笑源氏物語。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 源氏物語は古典の物語で頻出です。この本を通して軽く内容を知っておくだけでも役立ちます。楽しく古典を学びたい方にオススメです！！

(石井真衣)

知念 実希人

『優しい死神の飼い方』 (光文社)

913. 6/チ

◆仕事の成績不振により人間界のホスピスに左遷された死神のレオ。死に直面している入院患者の過去を解き明かしていく話。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 ミステリー小説ですが、主人公のレオが愛らしいので楽しく読み進められます。

(日下友那)

知念 実希人

『幻影の手術室—天久鷹央の事件カルテ—』 (新潮社) 913. 6/チ/2

◆手術後のオペ室でおきた医師死亡事件。記録用のビデオに録画されていたのは、一人の麻酔医が「見えない誰か」と必死に格闘し、その末に絶命する場面だった。この事件に隠された「病」を解き明かす本格医療ミステリーです。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 最後までどんなトリックなのか、誰が犯人なのか分からず、解決するときにそんな病気があるのかと驚かせられ、とても面白いです！

(森田梨紗)

月原 渉

『犬神館の殺人』 (新潮社)

913. 6/ツ

◆過去と現在、同じ館を舞台に起こった殺人事件の真相を解き明かすミステリー作品。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 過去と現在を話が行ったり来たりしますし、登場人物も多いのですが、混乱することなく読めます。事件が本当に不可解なので、トリックを予想するのも楽しいです。

(石崎杏梨)

辻村 深月

『ツナグ』 (新潮社)

913. 6/ツ

◆一生に一度だけ、死者との再会を叶えてくれる「使者（ツナグ）」がいる。突然死したアイドルが心の支えだったOL、親友への嫉妬心に苛まれる女子高生…。再会した生者と死者は何を思い、どうなっていくのだろうか。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 生者と死者が会えるなんて、ありえないことだけれど、それぞれの人生や物語があり、色々考えさせられました。関わる人を大切に後悔しないように生きたいと思えます。

(藤岡望音)

辻村 深月

『かがみの孤城』 (ポプラ社)

913. 6/ツ/1~2

◆不登校のこころという女の子が、突然光りだした部屋の鏡をくぐり抜けた先にあった「孤城」に行き、同じような境遇の7人に会うことで始まる物語。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 こころを主人公として話が進み、ラストで他のメンバーの生い立ちが分かるため、再読する時にはまた別の角度から楽しめる。

(梶木彩茜)

◆不登校の中学生が突然光りだした部屋の鏡をくぐり抜けた先にあった「孤城」に行き、同じような境遇の中学生と会うことで始まる物語。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 かなり長い作品で最初は意味が理解できないかもしれませんが、最後の伏線回収がとてもおもしろく、奥が深い作品です。

(大迫結奈)

◆不登校のこころの部屋にある鏡からつながる世界でくりひろげられる物語。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 物語がすすむにつれて謎が増えていくのですが、それがラストに解消されるのが最高です。こころの心境の変化にも是非注目してください。

(中村美月)

辻村 深月

『傲慢と善良』（朝日新聞出版）

913. 6/ツ

◆婚約者・坂庭真実が姿を消した。その居場所を探すため、西澤架は彼女の「過去」と向き合うことになる。浮かび上がる現代社会の生きづらさと徐々に明かされる失踪の理由。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 この本のキャッチコピーが「人生で一番刺さった小説」であることに納得するくらい深く考えさせられる小説です。人間の「傲慢」と「善良」のあり方がとても面白いです。

（千葉有紗）

津村 記久子

『この世にたやすい仕事はない』（新潮社）

913. 6/ツ

◆「一日コラーゲンの抽出を見守るような仕事はありますか？」ストレスに耐えかね前職を去った私のふざけた質問に、職安の相談員は、「あります」とメガネをきらりと光らせる。小説家の監視、バスのアナウンスづくりetc…マニアックな仕事を巡っていき…。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 ただのお仕事小説ではない、不思議な仕事の合間に起こる不思議な出来事を巡る小説です。読後、全ての職業に敬意を払いたくなる、ユーモラスな作品！！

（河野優菜）

中島 敦

『李陵・山月記』（新潮社）

913. 6/ナ

◆高名な詩人になるという夢にやぶれ、虎へと変化してしまった李徴という男が、その業を友人の哀惨に語るといふもの。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 古い話だからつまらないと思いがちでしたが、意外と読みやすく現代人にも共感できる“プライド”や“孤立”などができます。

（大庭麻央）

中島 京子

『小さいうち』（文芸春秋）

913. 6/ナ

◆昭和初期東京、戦争の影響になる中での家庭の風景や、人々の心情が、ある女中の回想録の中で写し出されています。しだいに戦争へ向かう日本のある家庭の日常が描かれています。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 女中の視点からみる戦時中の日本の日常がとても印象的でした。時代が変わっていく悲しさの中で、懸命に生きる主人公の姿に心打たれました。

（千住美咲）

中村 文則

『掏摸』（河出書房新社）

913. 6/ナ

◆東京を仕事場にする天才スリ師が「最悪」の男と再会したことで人生が狂っていく。運命とはなにか。他人の人生を支配するとはどういうことなのか。社会から外れた人々が見る景色とは。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 普通に生きていけば関わることがないであろう闇社会。その理不尽、不条理、どうしようもなさの全てをつきつけられます。「その男」と出会ったのは偶然か、運命か。唐突にくる結末には唖然とします。

（藤田彩夏音）

風良 ゆう
『汝、星のごとく』 (講談社)

913. 6/Nagi

◆複雑な人間模様を追っていく。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 本屋大賞に選ばれた。

(桑田真那)

◆瀬戸内の島に育った高校生の暁海と、母の恋愛に振り回され島に転校してきた櫛。ともに心に孤独と欠落を抱えた二人は、ひかれ合い、すれ違い、そして成長していく。生きることの自由さと不自由さを描き続けてきた著者が紡ぐ、ひとつではない愛の物語。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 最初私が読んだ時は本当に理解できない愛の話でしたが、そういった愛の形もあると考えて読むと、それぞれの気持ちを少しずつ理解できるようになっていきます。高校生で読む少し深い物語ですが、良い経験になると思います。

(近藤真純)

◆瀬戸内の島に育った高校生の暁海と自由奔放な母の恋愛に振り回され島に転校してきた櫛。ともに心に孤独と欠落を抱えた二人は惹かれ合い、すれ違い、そして成長していく。生きることの自由さ、それと背中合わせで存在する不自由さを描き続けてきた著者が紡ぐ、ひとつではない愛の物語。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 この本を読んで最初に抱いたのは「切ない」「もどかしい」という感情でした。不器用すぎる二人がすれ違いながらも本当に大切なものは何かを求め続けていく姿、そして、二人が折リなすラブストーリーが本当に切ないです。複雑で様々な人間関係が出てくるので、高校生だからこそ読んでもらいたい内容です。

(小林楓佳)

夏目 漱石
『こころ』 (新潮社)

913. 6/ナ

◆私が慕う「先生」が、一人の女性を巡って親友Kを裏切った過去を悔やんで、自らも命を断つ物語。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 教科書に載っていて授業で習った内容だが、一人の心の葛藤を考えさせられるところがポイントです。

(山本怜奈)

貫井 徳郎
『慟哭』 (東京創元社)

913. 6/ヌ

◆連鎖する幼女誘拐事件の捜査が難航し、窮地に立たされる捜査一課長。若手キャリアの課長を巡って警察内部に不協和音が生じ、マスコミは彼の私生活をすっぱぬく。こうした状況にあって事態は新しい局面を迎えるが…。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 幼くして娘を亡くした男が、子どもを救うために新興宗教にのめりこむ様が狂気じみていると同時に、子どもを失う辛さをリアルに表していると思います。それほどまでに子どもの存在というものには重みがあることを感じてもらえると思います。

(泉川楓佳)

貫井 徳郎
『乱反射』（朝日新聞出版）

913. 6/ヌ

◆法で裁かれない程度のちょっとした罪の連鎖が幼児の殺人事件を引き起こしてしまう話です。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 ここに出てくるモラル違反は心当たりがある人も少なくないと思います。読んでみると暗い気持ちになりますが、自分の行いをふり返るきっかけになります。ミステリー小説が好きな人にもおすすめです。

（塩山咲綾香）

服部 まゆみ
『この闇と光』（KADOKAWA）

913. 6/ハ

◆盲目の王女レイアは優しい父と意地悪な乳母ダフネと屋敷で暮らしていたが、ある日その日常は虚構だったと分かる。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 屋敷での美しい日常と、転じた現実の主人公の真実へと向かっていく展開に引きこまれるものがある。

（濱吉柚々子）

原田 マハ
『楽園のカンヴァス』（新潮社）

913. 6/ハ

◆ニューヨーク近代美術館のキュレーター・ティムブラウンはある日スイスの大邸宅に招かれる。そこで見たのは巨匠ルソーの名作「夢」に酷似した絵。持ち主は正しく真贋判定した者にこの絵を譲ると告げ、手がかりとなる謎の古書を読ませる。リミットは7日間。ライバルは日本人研究者・早川織絵。ルソーとピカソ、二人の天才がカンヴァスに籠めた想いとは。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 美術に関するミステリーという新感覚な世界観に引き込まれます。読後には、違った視点で絵画を観ることになるかもしれません。

（近藤朱莉）

東野 圭吾
『幻夜』（集英社）

913. 6/ヒ

◆阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件など、事実を交えて物語は進んでいく。借金返済を強いていた叔父を殺害してしまう主人公・水原。気が付くと、そばには見知らぬ女が。新海美冬と名乗るその女と水原は、震災をきっかけに共に生きていくこととなる。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 実際に起こったことと、フィクションが混ざっているからドキドキハラハラする。どんどん読み進められる。

（鈴木琴乃）

東野 圭吾 『手紙』 （文藝春秋）	913.6/ヒ
------------------------------------	----------------

◆強盗殺人の罪で刑務所に入った兄・剛志と、その兄の罪によって苦しむ弟・直貴の物語。兄の犯罪を知ってから、人生の節目ごとに「強盗殺人犯の弟」というレッテルに苦しみます。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 世間では犯罪が起こると被害者家族の話題が度々ありますが、この本は加害者家族の立場からストーリーが進んでいき、本の中で淡々とかけられる直貴の不遇に胸が痛みました。犯罪について様々な視点から考えられるようになる作品です。

（濱本果穂）

東野 圭吾 『聖女の救済』 （文藝春秋）	913.6/ヒ/5
---------------------------------------	------------------

◆すっかり関係が冷えきってしまった夫婦の間に起こった事件。完璧であったはずのアリバイが崩れていった先に見える結末とは…。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 有名なドラマ「ガリレオ」でも実写化された本です。犯人は分かっているのになかなか逮捕にたどりつけないもどかしさがポイントです。

（三嶋ささ）

東野 圭吾 『人魚の眠る家』 （幻冬舎）	913.6/ヒ
---------------------------------------	----------------

◆娘の小学校受験が終わったら離婚する。そう約束した仮面夫婦の二人。彼等に悲報が届いたのは、面接試験の予行演習の直前。娘がプールで溺れた、という知らせ。病院に駆けつけた二人を待っていたのは残酷な現実。そして医師からは思いもよらない選択を迫られる。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 母親の狂気的な娘への愛がどんどんエスカレートしていく様子がおもしろいです。心理描写も巧みでどんどん話に引きこまれていきます。今話題の生命倫理や脳死の問題にも触れていて、深く考えさせられるお話です。

（松本陽菜）

東野 圭吾 『あなたが誰かを殺した』 （講談社）	913.6/Higa
---	-------------------

◆閑静な別荘地で起きた連続殺人事件。残された人々は真相を知るために「検証会」に集まる。この連続殺人事件は偶然なのだろうか。『麒麟の翼』などでおなじみ、刑事・加賀恭一郎シリーズ。

【お勧めの点】 誰が犯人なのか、最後の最後まで分からない。推理小説のようなミステリー。一筋縄ではいかないようなお話が好きな人にオススメ。とてもおもしろい！

（辰馬圭威）

藤本 ひとみ 『数学者の夏』 （講談社）	913.6/Fuji
---------------------------------------	-------------------

◆青い鳥文庫KZシリーズの高校生版。旅先で事件に遭遇する。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 恋愛もあった女子校だからこそとても楽しめるし、高校で勉強する数学の内容も出てくるので自分も賢くなる気がします！

（藤岡芽依）

藤原 てい

『流れる星は生きている』（中央公論社）

916/F

◆ソ連参戦により夫と離れてしまう一人の女性が、三人の子どもと一緒に敗戦下を耐えぬく壮絶なノンフィクション。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 とても暗くて、自分も辛くなってしまう話であるが、自分の今置かれている状況や環境を見直すきっかけになるような作品。

(保田早智)

星 新一

『ボッコちゃん』（新潮社）

913.6/ホ/(b)

◆『ボッコちゃん』はバーで働く女性型ロボット。彼女に恋をする男性客のお話で、最後は少しゾクッとする結末が…！？

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 この作品に出てくる男性は全員バカに思えます。ボッコちゃんは話をだまってきたりしてくれて相づちを打っているだけなのに、みんな彼女に恋します。人との付き合い方、AIと人間などを考えるきっかけをくれる本です。

(吉田早織)

万城目 学

『プリンセス・トヨトミ』（文芸春秋）

913.6/マ

◆400年の長い歴史の封印を、東京からやって来た会計検査院の調査官3人と大阪の少年少女が解く。秘密の扉がついに開くとき、大阪が全停止するというお話。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 私たちが普段知っている大阪も実はそんな秘密が隠されているのかもしれないとワクワクしてしまうところや、最後に全ての伏線が回収される感じがたまらなくて、とても楽しいお話です。

(栞原一那)

町田 そのこ

『52ヘルツのクジラたち』（中央公論新社）

913.6/Machi

◆他の鯨が聞き取れない高い周波数で鳴く、世界で一頭だけのクジラ。たくさん仲間がいるはずなのに何も届かない。孤独ゆえ愛を欲し、裏切られてきた彼らが出会い、新たな魂の物語が生まれる。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 自己嫌悪や諦めの感情に対して、主人公への共感性が強かった作品。誰かにきっと声は届くはずだから声を出すのを諦めないでほしい。

(野澤愛加)

松村 真宏

『仕掛学～人を動かすアイデアのつくり方～』（東洋経済新報社） 141.72/M

◆ちょっとした仕掛けによって、自発的な行動に誘導することを、作者の松村氏が「仕掛学」と定義し、多くのユニークな事例とともに仕掛学を紹介している。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 題名は「〇〇学」とついていることもあって、難しそうに感じるかもしれませんが、本を開いてみると、多くの事例をまじえながら著されていて、読書の苦手な私も、一日で楽しく読み切ることができました。仕掛学は、経済・経営学に分類されているので、経済・経営学に興味のある方にオススメです！

(土田萌香)

松本 清張

『ゼロの焦点』 (新潮社)

913.6/マ

◆結婚間もない夫の謎の失踪を発端に、不可解な連続殺人事件に巻き込まれていく若妻が直面する衝撃の真相を描く。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 今ではあまり聞かない「お見合い結婚」など、当時の時代のことを考えたりするきっかけにもなると思います。結婚間もない夫婦に訪れた不可解な事件に怖さや不安を感じました。

(山中賀伶羅)

三浦 しをん

『風が強く吹いている』 (新潮社)

913.6/ミ

◆無名の大学が箱根駅伝への出場を目指す物語。胸が熱くなる名言が多く、心に響きます。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 ハプニングがありながらも、全員で力を合わせて乗り越えていくところが心に残りました。

(志保見知佳)

湊 かなえ

『告白』 (双葉社)

913.6/Mina

◆ある中学校の学年末の終業式。1年B組の担任を務める女性教師が、37人の生徒を前に衝撃的な告白を始める。彼女の娘は亡くなっており、警察は事故死と判断した。しかし、このクラスの生徒が娘を殺したのだというのだった。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 深読みをしようと思えばとことんでき、スピーディーに読もうと思えば読める。人によってさまざまな体験ができる。

(江田璃々子)

◆子供を校内で亡くした女性教師が、終業式のHRで犯人である少年を告白する。ひとつの事件をモノログ形式で迫る。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 衝撃的な場面がいくつかあるが、最後がゾッとして読み方が様々なのでおもしろい。

(中川栖瑛)

◆我が子を校内で亡くした女性教師が、終業式のHRで犯人である少年を指し示す。ひとつの事件をモノログ形式に「級友」「犯人」「犯人の家族」からそれぞれ語らせ真相に迫る。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 「綺麗ごと」は一切いわず、被害者遺族の正直な感情を露骨に著した痛快なストーリー展開が面白い。

(寒川雅)

湊 かなえ

『白ゆき姫殺人事件』（集英社）

913. 6/Mina

◆白ゆき石けんを作る会社の社員が殺されてしまう。一体誰が犯人なのか。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 テレビ、ネットなどで色んな情報が錯綜するがゆえに、どんどん分からなくなる。様々な噂から誰が犯人なのだろうと考察するところがおもしろい。

（脇阪凜空）

湊 かなえ

『豆の上で眠る』（新潮社）

913. 6/ミ

◆仲良し姉妹の万佑子と結衣子。二人で秘密基地を作り遊んだ日、姉の万佑子が行方不明になり、そのまま帰ってくることはなかった。しかし、2年後、突如姉が記憶喪失となり戻ってきた。両親は姉をすぐ受け入れたが結衣子は違和感を感じていた。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 自分も姉がいるから、姉妹という言葉の意味をととても考えさせられてとても良かった。

（大崎暖々花）

宮下 奈都

『羊と鋼の森』（文藝春秋）

913. 6/ミ

◆高校生の時、偶然ピアノ調律師の板鳥と出会う以来、調律に魅せられた外村は、念願の調律師として働き始める。ひたすら音と向き合い、人と向き合う外村。個性豊かな先輩たちや双子の姉妹に囲まれながら、調律の森へと深く分け入っていく。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 ピアノを愛する姉妹や先輩、恩師との交流を通じて、成長していく青年の姿が温かく描かれていて、心を打つ点。

（忽那美央）

◆高校生の時、偶然ピアノ調律の世界に魅せられた外村。ピアノを愛する姉妹や先輩、恩師との交流を通じて人として成長していく青年の姿を温かく静かな文章で綴った感動作。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 主人公と同じ高校生という立場に立ちながら読める一方、調律師という生き様が垣間見えます。

（向田奈帆）

宮部 みゆき

『ステップファザー・ステップ』（講談社）

913. 6/ミ/(b)

◆主人公「俺」が盗みに入った家は、両親不在の双子が住む家だった。「俺」は盗人であることを秘密にしてもらい代わりに父親を演じるという双子の提案を受け入れる。無事演じることができるのか。そして身の周りで起こる様々な事件を解決できるのか。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 次第に双子への愛情がふくらみ、不器用ながらも懸命に父親代わりをしようとする姿がおもしろいです。

（小林愛実）

村上 春樹

『ノルウェイの森』（講談社）

913. 6/ム/1、2

◆37歳の主人公・ワタナベは、飛行機のBGMでビートルズの「ノルウェイの森」を聴き、激しく混乱する。そして、学生時代を回想する。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 上・下でわかれている長編で、長い時間をかけて読むのにおすすめ。
(志水もも菜)

村田 沙耶香

『コンビニ人間』（文藝春秋）

913. 6/ム

◆コンビニでアルバイトとして19年間働き続けてきた主人公・恵子。異物を「正常化」する場所の一部であることに満足を感じつつ、家族や友人の詮索から逃れるため、恵子はコンビニをクビになった白羽さんとの歪な共同生活を始めるのだった…。

【自分が読んだ学年】 中3

【お勧めの点】 一般社会における「普通」とは何かということを考えさせられました。一般的に言われる「普通」はその人にとっては普通ではないのかもしれませんが。読む人によって考え方が変わっていくと思うので友人たちと感想を共有しあうのも面白いかもしれません。

(赤松奏音)

◆コンビニ店員として働いている主人公が、ある男性との出会いをきっかけに感情が動いていく話。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 賞も受賞しており、新鮮でおもしろかったです。

(伊藤美月)

桃戸 ハル

『5分後に意外な結末ベスト・セレクション』（講談社）所蔵なし

◆短い時間で読めて、全編、予想外の結末。笑い、感動、恐怖、名作など様々なタイプのドンデン返しがつまった本。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 高校生になると忙しくなり本を読む気力がうすれてくるため、短時間で濃密な時間をすごせる。

(杉本晴香)

森見 登美彦

『夜は短し歩けよ乙女』（KADOKAWA）

913. 6/モ

◆京都が舞台の物語。大学生の男性「先輩」と後輩の女性「黒髪の乙女」で構成されている。4章からなる物語。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 読めば読むほど様々な発見があり、何度でも読める本です。

(有吉優奈)

森見 登美彦 『有頂天家族』 （幻冬舎）	913.6/モ
---------------------------------------	----------------

◆主人公は、狸の名門下鴨家の三男・矢三郎。一族の誇りをかけて宿敵・夷川家とバチバチやり合う矢三郎と、へなちょこ家族の大騒動を描いたもふもふ毛玉ファンタジーです。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 頭を空っぽにして楽しめる作品です。狸一家のやわらかい愛情に満ちた物語を、忙しい日常のひとつときの癒しとして試してみても良いかと思います。

（岡上友香莉）

森見 登美彦 『熱帯』 （文藝春秋）	913.6/Mori
-------------------------------------	-------------------

◆『熱帯』という本に惹かれた主人公は、読書会でこの本の秘密を知る女性と出会う。そこで彼女が口にしたセリフは「この本を最後まで読んだ人間はいないんです。」だった。この言葉の真意を探す。

【お勧めの点】 読んでいる途中に少しずつちりばめられていて、読み進めるのが楽しい。

（長舟祐里）

山田 悠介 『モニタールーム』 （角川書店）	913.6/ヤ
---	----------------

◆月収100万円という破格の仕事を見つけた徳井。その仕事内容とは刑務所の地下のモニタールームでいくつものモニターをみる・・・というものだった。不審に思いながら、ひとつ目のモニターをのぞきこんだ徳井がみたものは、無数の地層で隔絶された地帯に住む少年少女だった。

【自分が読んだ学年】 中2

【お勧めの点】 この人の作品は最後のどんでん返しがすごいのですが、罪悪感にさいなまれる主人公の無力感が読んでいておもしろいです。

（藤井映優）

吉野 源三郎 『君たちはどう生きるか』 （岩波書店）	159.5/ヨ
---	----------------

◆「コペル君」こと本田潤一君が、日常生活で直面するさまざまな問題を通して、母方のおじさんと、生きかたを考えて成長していく話。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 コペル君と共に物事の見方を学ぶことができる点。

（深見朱里）

◆自分自身の過ちを認め、そのために苦しむことができるのは人間だけである。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 生きていく術など、とても考えさせられる内容。

（秋田希美）

カズオ・イシグロ著；土屋 政雄訳
『わたしを離さないで』（早川書房）

933.7/イ

◆1990年代末のイギリスで『提供者』の世話をする31歳の介護人であるキャシー。自分が育ったヘールシャムにある施設で暮らした奇妙な少女時代のことなどが書かれている。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 この小説は、臓器提供のために産まれたクローン人間がテーマに書かれています。悲しいストーリー展開ですが、この物語を通して、人生という限りある時間をいかに生きるかということを考えさせられます。

(祖父江萌夏)

アガサ・クリスティー著；青木 久恵訳
『そして誰もいなくなった』（早川書房）

933.7/ク

◆謎の人物から孤島に招待された10人。しかし、招待者の姿はなく、一人、また一人と童謡の歌詞どおりに殺されていき…。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 「ミステリーの女王」と呼ばれているアガサ・クリスティーの長編小説であるこの作品は、ミステリー好きにはたまらない一冊になること間違いなし！！終盤に明かされていくトリックもとても面白いので、最初から最後まであきることなく読めます。

(漆崎璃子)

アガサ・クリスティー著；山本 やよい訳
『オリент急行の殺人』（東京創元社）

933.7/ク

◆真夏の欧州を走る豪華列車オリент急行には、国籍も身分も様々な乗客が乗り込んでいた。奇妙な雰囲気に包まれたその車内で、いわくありげな老富豪が無残に刺殺体で発見される。偶然乗り合わせた名探偵ポアロが調査に乗り出すが、すべての乗客には完璧なアリバイが。ミステリの魅力が詰まった永遠の名作。

【自分が読んだ学年】 中1

【お勧めの点】 有栖川有栖も絶賛した名作。完全犯罪が名探偵によって暴かれる様子は、まさに圧巻としか言いようがない。犯人は一人か、複数か、もしくはいないのか。なぜ犯罪はここで行われたのか。動機は？全ての伏線が回収されていく様子を、ぜひとも目の当たりにしてほしい。

(椎名いづみ)

アンネ・フランク著；深町 真理子訳
『アンネの日記』（文藝春秋）

949.35/フ

◆ナチス迫害をのがれることができた少女が書いた日記。最後は捕えられて、チフスで亡くなるが、捕まるまでに書いた日記です。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 戦争時代の日記なので決して明るい話ではないけれど、隠れ家でも充実したアンネの様子を知ることができます。

(見尾夏実)

チョ・ナムジュ著；斎藤 真理子訳
『82年生まれ、キム・ジョン』（筑摩書房）

929.13/C

◆1982年生まれのキム・ジョンが主人公。結婚を機に専業主婦になったジョンは徐々にふさぎ込んでいき、心が壊れてしまう。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 専業主婦は孤独だということをリアルに感じる本です。舞台が韓国なので、特有の風習や価値観も知ることができます。

（酒匂りの）

◆突然、自分の母親や友人の人格が憑依したかのようなキム・ジョン。誕生から学生時代、受験、就職、結婚、育児など、人生を克明に振り返る中で、女性の人生に立ちはだかるものが浮かびあがってくる。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 韓国のお話だけど、日本でもニュースで話題になるような男女差別の話がでてくる。徐々に改善されているが、今も残る無意識の差別について考えるきっかけになる。

（大塚彩花）

ダニエル・キイス著；小尾 芙佐訳
『アルジャーノンに花束を』（早川書房）

933.7/キ/1(b)

◆チャーリー・ゴードンは32歳になっても幼児ほどの知能しかなかった。そのような彼に大学の先生が手術で頭を良くしてくれるという話が舞いこんだ。彼は手術を受け天才へと変貌する。しかし知能が上がるにつれて彼の知りたくなかったことまで理解してしまう。そのようなチャーリーの苦悩の物語です。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 この話はチャーリーの知能に合わせて文章が変化していきます。誤字脱字が多い所から難しい言葉を使うようになり、少し読むことに苦労することもあります。ですが、そのような文章を読んでいくことで、より知的障害のある方を身近に感じられます。

（川井智惺）

◆32歳で幼児の知能しかないパン屋の店員チャーリーは、ある日、ネズミのアルジャーノンと同じ画期的な脳外科手術を受ければ頭がよくなると告げられる。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 主人公チャーリーの気持ちを思うと、涙なしでは読めません。

（武藤瑞季）

◆知的障害をもつ主人公が特殊な手術を受けます。IQはどんどん上昇し、主人公は人として評価され始める一方、自分が周りの友達から見下されていたことを知っていきます。この本は主人公の日記として記されていて知能や心情の変化がうかがえます。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 一人の人間の心の変化を追うことができ、共感できる点も共感できない点も人それぞれあると思います。

（河合柚）

デイヴィッド・ローベンハイマー, スティーヴン・J・シンプソン著 櫻井 祐子訳
『食欲人』 (サンマーク出版) 498.56/R

◆昆虫学者の二人が行った実験から生物の食欲の基本は、必要なたんぱく質を得ることであることを明らかにし、そこから他の実験や野外観察により人間が栄養を過不足なく摂取することの大切さを説いている。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 筆者が行った実験の過程や結果をグラフや図を用いて分かりやすく説明している。そこから展開される内容も高校生物レベルで解説しており、生物選択生、生物が好きな人に面白い。

(岩本帆夏)

ドナ・ジャクソン・ナカザワ著 清水 由貴子翻訳
『小児期トラウマがもたらす病 : ACEの実態と対策』 (パンローリング) 493.09/N

◆小児期に両親の死、両親の離婚、虐待といった「逆境」を経験した人は成人してから体のあらゆる所に不調をきたす割合が高くなる。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 あらすじに書いたようになぜ不調が起こるのかがこの本には載っています。また、その実例を読んでとても驚きました。人間の身体ってすごいと思える本です。

(北村彩奈)

アーサー・コナン・ドイル著 ; 日暮 雅通訳
『四つの署名』 (光文社) 933.6/シ/5

◆ある日、ベーカー街を訪れた若く美しい婦人。父が消息を断って10年になるが、ここ数年決まった日に高価な真珠が送られたという。ホームズ達が真珠の所有者を探し当てた時、その男は殺されそこには四つの署名が…。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 いくつかシャーロックホームズシリーズがありますが、私はその中でも今回オススメした『四つの署名』が一番好きです。シャーロックホームズと聞くと難しそうに思われるかもしれませんが、すぐにイギリスの街へ読者をひきこんでくれる点がとても素敵でオススメです。

(長澤未来)

ハン・ジェニー
『The Summer I Turned Pretty』 (S&S Books for Young Readers) 所蔵なし

◆子供の頃からの男友だち (イケメンと美女) と恋する話。アマプラでも配信中。Season 2まで出てます。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 洋書だから英語の勉強になる。アメリカ&カナダのティーンは皆知っているくらい有名。見たら絶対、全員ハマります。本当にオススメです。

(槇村友寿沙)

ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド 著
『Factfulness : 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』 (日経BP社) 002. 7/R

◆ファクトフルネスとは、データや事実に基づき、世界を読み解く習慣。筆者は、スウェーデンの医師、公衆衛生学者であり、国際保健学の教授でもあった。これを読めばあなたも今日から世界の見方が180度変わるはず！

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 この本を読んで、我々（特に教育を長く受けてきた人）はいかに世界を誤って解釈していたのかが分かった。自分には当てはまらないと思っているそのあなた、以下の質問に答えてください！

質問：世界の1歳児で、なんらかの予防接種を受けている子供はどのくらいいる？

A. 20% B. 50% C. 80%

正解はCの80%。もっと少ないのではないかと思った人はぜひ読んでみて下さい。

(島田幸)

ヘルマン・ヘッセ著；井上 正蔵 訳
『車輪の下』 (集英社)

943. 7/へ

◆優秀な男の子が、親や周囲の重圧の中神学校に入学する。彼の青春は勉強と規則ずくめの日々を奪われ、次第に反抗し学校を去り、故郷へ戻って人生をやり直そうとする。

【自分が読んだ学年】 高3

【お勧めの点】 勉強のしすぎが良いというわけではないということが分かる。教育方針を改めて考える。

(石河瑠衣)

J・R・R・トールキン著 瀬田 貞二訳 田中 明子訳
『指輪物語 追補編』 (評論社)

933. 7/ト/10

◆「旅の仲間」「二つの塔」「王の帰還」の三部からなり、魔王カウロンが作った力の指輪を破壊するために旅立ったホビット族のフロドとその仲間たちの冒険と指輪戦争とが交互に描かれています。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 読みきるのは大変ですが、それぞれの国や種族によって様々な歴史や設定の描写があり、壮大な世界観やストーリーを楽しむことができる本だと思います。

(田中希実)

◆闇の力を秘める「黄金の指輪」ホビット族や魔法使い、妖精たちの冒険の物語。冒険とロマンへの夢を描いたファンタジー。

【自分が読んだ学年】

【お勧めの点】 様々な登場人物が出てくる。壮大な物語で夢があって、読んでいて楽しい。ファンタジーが好きな人には是非、読んでほしい。

(小形めぐ)

ロバート K. レスラー, トム シャットマン, 相原 真理子翻訳

『FBI心理分析官—異常殺人者たちの素顔に迫る衝撃の手記』 (早川書房)

936/レ

◆殺人犯の心理についてまとめた。

【自分が読んだ学年】 高2

【お勧めの点】 ホラー映画や全世界の殺人鬼のニュースをみて興味を持ったことはありませんか？この人たちは何を考えているのだろうと。それを知りたい人は是非。

(谷野真優)

ロジェ・マルタン・デュ・ガール著；山内 義雄訳
『チボー家の人々』（白水社）

953. 7/M/1～13

◆フランスのチボーという家の一家の物語。父と息子達が時代に揉まれながら生きる様をリアルに描いている。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 ノーベル文学賞受賞作というだけあって、重厚感のある内容。人物描写や社会情勢の描き方がリアルで美しい。長い物語だが、読み終わった後の達成感や感動は格別。

（金吉沙弥子）

J. K. ローリング作；松岡佑子訳
『ハリー・ポッター』シリーズ（静山社）

933. 8/R/1～7

◆イギリスが舞台の魔法使いであるハリーポッターの学校生活。

【お勧めの点】 ハリーやその友達の成長していくところが面白いです。

（菅千夏）

J. K. ローリング作；松岡 佑子訳
『ハリー・ポッターと賢者の石』（静山社）

933. 8/R/1 (d)

◆9と3/4番線ホームから紅の汽車に乗り、hogwarts魔法学校へ！そこに待っていたのは冒険と友情。そして闇の魔力の影…。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 誰もが知っているハリーポッターシリーズの第一作です。個性豊かなキャラクターと非現実的な魔法界の物語に自然とひきつけられてしまいます。シリーズ全巻を読み切るのはかなり時間がかかりますが、最後まで楽しんで読めると思います。

（藤川実由）

J. K. ローリング作／松岡 佑子訳
『ハリー・ポッターと炎のゴブレット』（静山社）

933. 8/R/4

◆ハリーが成長していき、大会が開催され、その時にヴォルデモートが復活して友達のセドリックが殺されてしまう。

【自分が読んだ学年】 高1

【お勧めの点】 『賢者の石』の時はまだ幼く、楽しい感じだったが、だんだん大人になり高校生向けだと感じました。

（中村麗愛）

76 回生からの読書案内（高校生）

発行日 2024 年 7 月 5 日

監 修 司書教諭 幸森孝子

発 行 甲南女子中学校・高等学校 図書館

この冊子は、卒業生が皆さんにぜひ読んでもらいたいお薦めの本を紹介しています。

皆さんの先輩が、いつごろ、どんな本を読んでいたのか、この冊子全部に目を通すだけでも、おもしろいかもしれません。また、自分の知らなかった作家やジャンルの本を読みたいときにも、役に立ちます。

この冊子を発行した時点で図書館にある本には、書名の後に請求記号をつけています。図書館で本を探すときの参考にしてください。